



ラムサール条約登録湿地「厚岸湖・別寒辺牛湿原」
平成28年度版



オオハクチョウ飛来日当てクイズ

厚岸町の厚岸湖～別寒辺牛湿原には、毎年非常に多くのオオハクチョウがやってきます。12月初旬、渡りのピークには多い年で5,000～6,000羽以上が羽を休め、1～3月には1,000～3,000羽ほどが越冬する国内有数の越冬・中継地です。しかし、カキの産地として厚岸町の名はよく知られていますが、オオハクチョウなどの水鳥との結びつきは全国的にあまり知られていません。

厚岸町は、人為的な餌付けによってたくさん水鳥がやってくるわけではなく、自然環境が豊かであるために餌が豊富にあり、オオハクチョウなどの水鳥がやってくるのです。

つまり、オオハクチョウなどの水鳥は厚岸の自然の豊かさの象徴であり、そこで生産される海産物などは、それら自然の恵みをふんだんに受けた結果の産物です。

このオオハクチョウ、毎年10月になると第1陣がやってくるのですが、さて今年は何月何日に厚岸町にやって来でしょうか？ 皆さんで予想してみてください。初飛来日を当てた方の中から、抽選でプレゼントをお贈りいたします。

●主催 厚岸町

●応募方法

この応募用紙にご記入の上、ファックスしていただくか封書で郵送してください。E-mail・ハガキでも受け付けております。

E-mail・ハガキの方は、

○予想飛来日 ○住 所 ○氏 名

○電話番号 ○職業又は学校名

をご記入のうえ水鳥観察館までお送りください。

●応募期間

平成28年9月1日～平成28年9月30日まで
(当日消印有効)

●過去の初飛来日(平成7年から)

H7 10/24	H8 10/11	H9 10/12日	H10 10/17
H11 10/19	H12 10/19	H13 10/19	H14 10/16
H15 10/14	H16 9/25	全員から抽選	H17 10/9
H18 10/13	H19 10/12	H20 10/12	H21 10/8
H22 10/13	H23 10/4	H24 10/9	H25 10/6
H26 10/11	H27 10/7		

●賞 品

○ドンピシャ賞(3名)

厚岸町の自然の恵み「殻付き牡蠣(カキえもん)」セット

(正解者2名以下の場合)

○ニアピン賞

最も近い日を選んだ人の中から、ドンピシャ賞と合わせて3名になるまで抽選いたします。

(賞品はドンピシャ賞と同じ)

※注1: お1人様1回のみのお応募といたします。

(複数回答は無効)

※注2: 10月1日までに飛来した場合は、応募者全員の中から抽選を行いますので、

10月1日以降でお答えください!

※注3: 初飛来は、水鳥観察館の職員が観察館野外観察カメラで確認した日を飛来日とします。

【応募・お問い合わせ先】

〒088-1140

北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ66番地

厚岸水鳥観察館

「オオハクチョウ飛来日当てクイズ」係

TEL&FAX: 0153-52-5988

E-mail: bekan@tiara.ocn.ne.jp



キリトリ線

平成28年厚岸湖・別寒辺牛湿原オオハクチョウ飛来日当てクイズ

10月1日以降で答えてね!

予想飛来日

月 日

住 所 〒

TEL () -

ふりがな

氏 名

男・女

職業又は学校名





別寒辺牛

2016年9月発行
NO.32

タンチョウの営巣数が増加の一途

水鳥観察館ができた平成7年当時は、厚岸湖・別寒辺牛湿原で繁殖するタンチョウは“25～26つがい”でした。その当時は、タンチョウが利用できる厚岸町の湿原面積に対して、このつがい数でも多いと考えられていました。

ところが平成17年頃に“40つがい”を超え、10年経った昨年平成27年には“69つがい”にもなっていることがタンチョウ保護研究グループ(釧路市)の調査でわかりました。

開館当時の3倍弱にまで増加したタンチョウの営巣数ですが、営巣に適している湿原の面積は限られています。より条件のよい、エサとなる生き物がたくさんいる湿原は、より強いつがいが既に陣取っています。それ以外のタンチョウは一体どこに？

大正時代に絶滅寸前にまで減少したタンチョウは、釧路湿原周辺の様々な人々の保護事業により順調にその数を回復し、平成17年には一区切りとも言える1,000羽を超えました。そして現在、約1,700羽が北海道に生息しています。全道的に加速度的にタンチョウが増えていることがこのことからわかります。

主に釧路・根室・十勝地方で生息するものがほとんどですが、一部は道北、網走地方、日高地方などに分散しています。しかしそれらも全体からするとまだまだほんの僅かで、ほとんどが道東で過密になっています。

タンチョウが過密になった原因の一つにタンチョウと酪農との関係があります。酪農地帯には、タンチョウが好きなデントコーン(飼料用トウモロコシ)がたくさんあり、デントコーン畑、牛舎周辺、糞の堆積場などを積極的に利用しています。そこをエサ場の中心として、あまり環境のよくな

い湿原をなわばりとするものが増えているのです。そのため農家との軋轢を生じています。

このような状況下で、今まで繁殖しなかった場所に生息するようになった結果、その場所は人間の住む環境に極めて近接してしまいました。

このことは不幸にも、タンチョウの事故の増加の原因ともなっています。列車事故、交通事故、電線事故などで負傷、死亡するタンチョウが後を絶ちません。厚岸町においても、平成27年度は7羽が犠牲になっており、その地域で増加した分だけ事故で死亡するものも増えているという悪循環に陥っています。

それでも増加し続けているタンチョウ。本来冬季には本州まで南下していた野鳥ですが、現在はほぼ100%が北海道内で過ごしている留鳥となっています。タンチョウ保護に関わる行政や各種団体は、この状態を元に戻す、せめて北海道の他地域に分散していく方法を模索中なのです。



観察館前の別寒辺牛川河口で繁殖するタンチョウの家族。

オスは2011年生まれで2013年より繁殖開始したタンチョウ界でも最速と思われる父親(右)。今年で4回目の子育てを行っている。

※裏ページはオオハクチョウ飛来日当てクイズです！